

長欠勤)為メ未だ提出スルニ至ラト同下、狀勢ニア
「或留職ニ中何等動搖セアレア以テ此際能近組合ヲ
撲滅スヘシ策動ニ居レリ

三、組合側ノ態度

連日組合長鈴木肆郎幹部鈴木一夫及久次多藏有川某
等率族シ昨日別記ナニ賢明ナレ斯民諸君ニ新シト顯
スル體験取調仰御仰工場附近及開戦工場抜完附近
ニ撒布セルが據高幹部、意終トシテハ鋼鹿職工等ハ
眼半ニ無、今社が組合ヲ徹底的ニ打壊スルモノナリ
ト信ジ斯ナヘハ總全盤、威信ニ深スル向處ナリトシ
津東公盟ト策動シテ之ナテ應援シ必勝ナ期スル模様
ナルナ十四日現在職工教其他別記第四表ノ如シ
右及平(迎)報云也

(別記一一)

大正十四年十一月十三日

三共株式會社品川工場長

御父兄様

自然

竹塙七郎益々仰所尚高弟久松一幸、他

陈而近次為立候所並てカナモ松傳也、久松子也、新川做
(共向平平常少々少々之併了仰恩念少々仰所尊少
少々之併了仰恩念少々之併了

高七桂子上今之在少々平常仰恩念少々之併了

計、不_レ仰神門正所

前文